

2007年05月31日

独立行政法人海洋研究開発機構

## 海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」の 那覇港での一般公開等について

海洋研究開発機構（理事長 加藤康宏）は、第21回太平洋学術会議（[別紙](#)ご参照）の一環として沖縄県那覇市の那覇港那覇ふ頭において海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」の一般公開を実施しますのでお知らせいたします。

### 記

- 1.日 時： 平成19年6月17日（日）10時～15時30分（受付は15時まで）
- 2.場 所： 那覇港那覇ふ頭一号岸壁（沖縄県那覇市通堂町：[別紙](#)  
[地図](#)ご参照）
- 3.公開内容： 海洋調査船「なつしま」  
無人探査機「ハイパードルフィン」（[参考資料](#) ご参照）
- 4.事前登録・入場料： 事前登録は不要です。また、入場は無料です。
- 5.主 催： 太平洋学術会議事務局（琉球大学内）  
協 力： 独立行政法人海洋研究開発機構
- 6.その他： 1)悪天候等により中止となることがあります。  
2)船内は段差が多く危険なため、ハイヒール・サンダル等、また、酒気を帯びての見学はご遠慮ください。  
3)小学生以下は、保護者が必ずご同伴ください。

## 【第21回太平洋学術会議（21st Pacific Science Congress: PSC21）】

太平洋学術協会が主催する国際会議で、第1回は、1920年にハワイのホノルルで開催され、その後4年ごとに開催しています。本会議は、太平洋地域社会間のコミュニケーションの促進、科学の発展と諸国民の繁栄の促進、絆の強化等を目的としています。

今回は、平成19年6月12日（火）～18日（月）に、宜野湾市沖縄コンベンションセンターにおいて開催されます。当機構からも多くの研究者が参加し、当機構で研究を進めている深海化学合成生物群集に関するセッション（当機構極限環境生物圏研究センター丸山プログラムディレクター、藤倉サブリーダーらがセッションオーガナイザーを務める予定）なども開催される予定です。（詳細は、第21回太平洋学術会議ホームページ：<http://www.psc21.net/index.html>をご覧ください。）

### 【地図】



### 【参考資料】

・海洋調査船「なつしま」



全長	67m
幅	13m
深さ	6.3m
喫水	3.8m

国際総トン数	1,739トン
--------	---------

様々な観測機器を搭載し、深海・海溝域の総合的な調査観測研究を行うことができます。また、最大潜航深度3,000mまで潜航調査することができる無人探査機「ハイパードルフィン」の支援母船としても運航しています。かつては、水深2,000mまで潜れる有人潜水調査船「しんかい2000」の母船として活躍していました。詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/equipment/ships/natsushima.html>

・無人探査機「ハイパードルフィン」



全長	3m
幅	2m
高さ	2m
空中重量	3.8トン
最大潜航深度	3,000m

高解像度ハイビジョンカメラを備え、水深3,000mまでの映像を撮影できる水中ロボットで、2005年2月に行われたスマトラ島沖地震緊急調査では、大規模な亀裂や崩落を世界で初めて確認しました。

マニピレータ2機の使用によるサンプル採取、観測機器の設置と回収も可能です。詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/j/about/equipment/ships/hyperdolphin.html>

お問い合わせ先：

(一般公開について)

海洋地球情報部

広報課長 田代 省三 TEL：045-778-5400

(報道について)

経営企画室

報道室長 大嶋 真司 TEL：046-867-9193